比良のふもとに生まれ育って

高　山　一　美
（志賀町北比良地区在住）

私，生まれも育ちも比良のふもと，比良山より流れ出でし水をうぶ湯に使いました。視野には近江八景の一つに賞される比良の峰々が必ず入るという生活環境にあった訳です。情緒形成に大きな影響を与えられたであろうことは，山と対峙するとき与えられる平安から押しはかることができます。

生長し，生活様式も時に応じて変化していきます。とり巻く人も変りました。しかし，視界には，人間社会にこびることなく時として自然の猛威をふるう山々がたんたんと時の流れを感じさせずに横たわっています。“変わらぬものがない”というこの世の中で変ってほしくないものが変らずにいてくれることに対して安心をし，そして感謝をし，そして永遠にと望みます。

多くの人がそうであるように私も自然を愛します。そしてその思いをなっとくいくように満たしてくれるのが私にとっては山々です。もちろん比良山へはよく登ります。

春先，雪どけごろになると思いは高なります。一年で一番山々の生命がいぶくときです。かたい芽がほころび水々しい新しいいのちの誕生です。そして花々が咲きほこります。いまは夏，梅雨を経てたっぷりと水をたくわえた樹々は枝を張り力強い「緑」となります。雨上り，光を受けた樹々は生長が目に見えるかのようにいきいきとし，山に入った者に“感動を与えられる時を得た選ばれた者”の優越感さえ感じさせます。

秋，ぶなの紅葉は指折り数えるたのしみ事です。「今年はいつ頃が見ごろだろう」などと比良の頂の紅葉が頭の中を大きな割合でしめることになるのです。

雪をつけたときの陵線は、ふもとからは別世界のごとくに存在をアピールしてきます。積雪が光を反射させ，陵線を明るく浮き出させ，青い空と流れる雲が借景です。現実がはらいのけられ，空間を障害とせず意識は通いなれた陵線上の雪景色に満足します。

誠実に四季の節理に応じる自然は，これからもうらぎることなく私を迎えてくれるはずです。しかしながら豊かな比良の自然が破壊の危機に直面しています。スキー場大拡張計画を前提に昭和62年１月，比良山の心蔵部が県の公園事業に決定されました。

計画予定地である美しいコヤマノ岳の紅葉，渓流，存在するからこそ思いを馳せ，満たされるのです。いったん破壊されれば，景観は観念のみとなり思いは満たされることなく憤りとなります。

スキー場拡張計画は，昭和59年10月のビワコ汽船からの事業申請のとき，地質学，動・植物学また景観上，とても通らないとのことで一度たち消えになった経緯をもつ無謀なものです。

自然のさまざまないのちの息衡の中にいるとすべての生命の享有するプライドは同じであることを学びます。私たちが生態系の一部であると，はだで気づいたとき，多くの感謝が生まれ，そして付和雷同でありがちな自らの存在の意義に対しても少しばかり確信へ導かれます。

私は，いつも心なごましてくれる美しい比良に対する感謝と，次世代へ美しいままで手渡したいという気持ちと，そして反骨精神とで「比良山を破壊しないで」と微力ながらさけんでいます。ぜひ，比良をこのままに，そして自然を大切にと願います。